

第40回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査員講評



図画部門の審査風景



作文部門の審査風景

審査員講評／作文部門



青森県児童文学研究会
会長 野澤 秀明

●青森県知事賞 十和田市立藤坂小学校5年 附田 紗奈

「じいちゃんの田んぼと雷」
稻の生育に関心を深め、いろいろな手伝いをしながら農業と高齢化について考え、最後に「季節の行事みたいな農作業は楽しい」と思えるようになったのはすばらしい。

●青森県教育長賞 八戸市立大久喜小学校2年 野里 匠太

「お米パワーありがとう」

いきいきとした文章表現がすばらしい。
災害時のおにぎりの炊き出しのニュースから、世界に視野を広げ「ごはんを食べて、りっぱな日本のおとなになりたい」という少年らしいまっすぐな表現にもパワーがあります。

●青森県農協中央会会長賞 おいらせ町立木ノ下中学校1年 久保田 菜々子

「ひいおばあちゃんといつまでも」

ひいおばあちゃんから戦争中の話を聞いて、妹と二人で米とぎをするようになり一歩前進。家族七人でごはんを食べている九十四才のひいおばあちゃんの幸せそうな顔が目に浮かび、「いまの日本は戦争がないから」という声も聞こえてくるようです。



青森市立筒井小学校
校長 長崎 雅仁

今年も、たくさんの応募作品を読ませていただくことができました。どの作品からも、私たち日本人の食の根底を成しているごはん・お米に寄せる愛情が感じられました。また、お米の生産を支えている人々への感謝の気持ちもよく綴られていました。
それらの中でも、ごはん・お米に関わる体験を通して、人と人の温かいつながりを描いた作品に心を惹かれました。今後も、ごはん・お米が結ぶ心の交流に目を向けた応募作品がますます増えてくれることを期待しています。



青森市教育委員会
副参事 原子 雄治

お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く、書き手の成長を感じられました。心に残った作品には、①自分の思いを素直に表現、②自分なりの独特な言葉で表現、③目の前に場面が浮かんでくるような会話文、④自分の体験から考えたこと、⑤将来の自分の姿について考えたこと、などが見られました。作品からは家族を大切に思い、そのために自分が頑張るという意気込みも伝わってきました。

作品は書き終えたら、他の人に読んでもらうことで、伝わりにくい部分の確認ができます。原稿用紙での書き方も含めて見直しが大切です。



東奥日報社 編集局生活文化部
生活文化部長 相木 麻季

審査員講評／図画部門



青森児童美術研究会
理事 大宮 賢吉

第40回青森県「ごはん・お米とわたし」の図画コンクールを審査いたしました。広い会場には、多くの子ども達の絵が並んでいました。

「今年のお米はおいしいよ。」とか、「お米づくりは好きだよ。」という声が絵の中から聞こえてきました。

昨年より応募作品が増えたことはとてもすばらしいことです。
さて、三賞について少し触れてみたいと思います。

●青森県知事賞 おいらせ町立木ノ下小学校1年 宮守 杏寿

「わたしのさいっこうのおにぎり」

画面いっぱいに「のりのついたおにぎり」を食べている杏寿さんの姿に圧倒されます。大きな「おにぎり」を胸にかかる、大きく口を開けて、とてもおいしそうに食べています。

バックの表現もすばらしいです。海の中へ潜ってウニを探る人、右側には白い漁船も見えます。この遠景を描くことで、画面中央の杏寿さんをずっと支えています。

●青森県教育長賞 十和田市立南小学校5年 蛭名 真稀

「おじいちゃん、元気になって良かった。」

「お米」をとっても大事にしている一家の様子がよく描かれています。「お米づくり」をしているおじいちゃんの描写がとてもよい。

目じりにしわをよせてニコッと笑っているおじいちゃん。山盛りのごはん一粒がよく表現されています。その後ろでこにこ笑っているおばあちゃんの表現がよい。画面右手に座っている真稀さんの描写もよかったです。

●青森県農協中央会長賞 三沢市立第一中学校2年 鳴海 星

「給食は感染症対策をしっかりと」

今猛烈に勢いを増している「コロナ禍」の絵がとてもよく描かれています。マスクを着用している人物表現が中学生らしくてよい。髪の黒さと衣服の青さの表現もすばらしい。



青森児童美術研究会
理事 工藤 玲子

今年もコロナ禍の中での作品募集でしたが、前年を大きく上回る応募がありました。審査会場いっぱいに並んだ県内の小学校、中学校の作品は、学校や地域の行事に関連した題材は少なかったものの、感動したことや思い出に残ったことなどを生き生きと表現した作品が多く、嬉しく思いました。

青森県知事賞の宮守杏寿さん（おいらせ町立木ノ下小学校1年生「わたしのさいっこうのおにぎり」）の作品は、大きく口を開けて大きな三角おにぎりを食べようとしている瞬間に伸び伸びと表現した素晴らしい作品です。画面中央に描いた最高のおにぎりは、黒海苔を巻き、上にはウニがのっています。腰を掛けている海岸の岩や青い海は混色、重色を工夫して描いています。青い空には、カモメが飛び、太陽がまぶしく輝いています。中心の杏寿さんの豊かな表情と周りの様子も丁寧に楽しく表現した作品です。

青森県教育委員会教育長賞の蛇名真稀さん（十和田市立南小学校5年生「おじいちゃん、元気になって良かった。」）の作品は、おじいさんを大きく中心に描き、前後に自分とおばあさんの配置を工夫して構成しています。元気になったおじいさんの手には大盛りの白いごはんが一粒一粒描かれていて美味しいそうです。テーブルの上のたくさんのご馳走もよく表現しています。明るく楽しい会話が聞こえてきそうな楽しい雰囲気とともに真稀さんの優しい気持ちが伝わってくる力作です。

青森県農協中央会会长賞の鳴海星さん（三沢市立第一中学校2年生「給食は感染症対策をしっかりと」）の作品は、給食の準備の様子を見事な画面構成の工夫で表現した優れた作品です。前面の人物と後方の人物の動きを巧みな描写力でとらえています。ごはん茶碗を手渡している人物の上着の質感を対比した表現も効果的です。ごはん茶碗のごはんやバットに付いて残っているごはんの表現も星さんの觀察力と彩色の工夫が見られます。



青森児童美術研究会
理事 中谷 則子

新型コロナの影響で、学校行事を題材とした作品は例年より少なかったものの、ここ5年間で応募点数が一番多く大変嬉しく思いました。子どもたちの頑張りと先生方の熱心な指導に敬意を表します。

バケツ稻を育てたり、田植えや稻刈りをするなど、自ら体験したことを上手に表現した絵からは、米作りに関わる仕事の喜びが伝わってきました。
家族や友達と一緒に食べるごはんの絵からは、楽しそうなおしゃべりや美味しい匂い今までくるようでした。その他にも身近な生活の中から見つけたごはんとお米の題材を上手に表現した作品もありました。
表したい気持ちを強く持ち、心を込めて頑張って表現した絵からは、喜びと感動が伝わってきます。明るく楽しく豊かな絵を今後も期待します。

●青森県知事賞 おいらせ町立木ノ下小学校1年 宮守 杏寿 「わたしのさいっこうのおにぎり」

真っ赤な太陽がふりそそぐ海岸で、大きな口を開けておにぎりをほおばる杏寿さんが、画面から飛び出しそうです。陽に焼けて元氣いっぱいの肌の色、顔と同じくらい大きなおにぎりの白、青色の空と海。色の使い方が上手です。とても明るく力強い絵になりました。

●青森県教育長賞 十和田市立南小学校5年 蛇名 真稀 「おじいちゃん、元気になって良かった。」

元気になったおじいさんが手に持っているのは、こぼれ落ちそうな大盛りのごはん茶碗。それをにこにこしながら後ろで見ているおばあさんと真稀さん。たくさんのごちそうにも喜びがあふれています。今までにない題材で細かいところまでていねいに仕上げた作品です。

●青森県農協中央会会长賞 三沢市立第一中学校2年 鳴海 星 「給食は感染症対策をしっかりと」

新型コロナ感染症の影響を受けること2年目になりました。給食を配る当番も受け取る生徒もマスク、目線は手元だけ、静寂を表しています。少ない色数で濃淡を上手に使っています。特に白衣の表現が巧みです。全体に清潔感がある素晴らしい作品です。